

はじまりとしての建築

K+S アーキテクト
SINCE 1990



目次

はじまりとしての建築

- 1 3つのコートのある家
- 2 階段ギャラリーのある家
- 3 都市型ボタニカルハウス
- 4 浜松・山手の家
- 5 軽井沢・追分の家
- 6 長瀬の家
- 7 みどりの見える家
- 8 小江戸・川越の町家
- 9 又穂の家
- 10 人形町の家
- 11 ロードサイドの家
- 12 森の小屋
- 対談 鹿嶋 × 佐藤
- 13 児童養護施設 筑波愛児園
- 14 特別養護老人ホーム 小泉の杜
- 15 ひだまりコート
- 16 等々力テラス
- 17 かぜの小路
- 18 国立遺伝学研究所 宿舍

はじまりとしての建築

何もない平原にイスを置き、そこに座って時を過ごすことで居場所ができます。

その少し離れたところにもう一人がイスを置き、そこに座ると関係性が生まれます。

一人目は日差しの当たり方や居心地の良さで場所を選びますが、二人目は一人目との距離や向き、相手の過ごし方など、いろいろな事に思いを巡らすことになります。

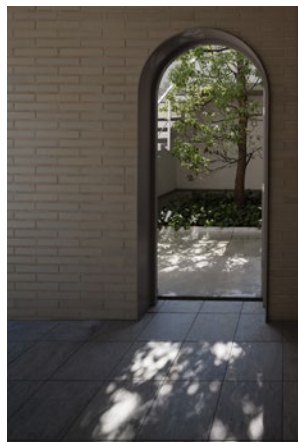
実際に建物を建てる場合、何もない場所に建てる事はありませんが、仮にそういう場所があったとしても地形や方位、四季の移ろいなど自然との付き合い方は良く考えなければなりません。ましてやすでにある街の中に建てるのであれば、様々な関係性の中で作ることになります。

思考錯誤の末、ようやく完成した建物は、街並みや人の動きに何かしらの影響を与えます。建物を建てることで何かが変わり、何かが始まります。

私達ができることは、次に始まる何かに時間を掛けて思いを馳せることです。



道路に面する玄関ポーチ



玄関ポーチからのアプローチ
2階のリビングテラスに続く

1

3つのコートのある家

商店街と住宅街の境界に位置する住宅。
周辺の中層建物からの視線をカットするため
中間領域として外周部に3つのコート（中庭）
を設けた。リビングルーム、スタジオ、ゲスト
ルームはそれぞれの専用のコートと繋がり
都市の中であってゆったりとくつろげる場を
提供している。大邸宅でありながら街と緩や
かに繋がった建物である。

左：スタジオの専用コート
外部から直接アプローチできる

右：ゲストルームのコート
浴室もコートに面する

下：リビングテラス
建具をフルオープンすると、内外が繋がった大きな空間になる





中央の樹脂モルタルのコアが階段ギャラリー / 板張りの屋根が集まる

2

階段ギャラリーのある家

住宅密集地に建つ住宅。

周辺敷地の余白を利用してその余白を増幅させる様に建物を配置している。建物の中央に階段ギャラリーを設け、地下1階からロフトまで重層させた場を縦方向につないだ。



階段ギャラリー / 地下から天窓を仰ぐ



建物外観



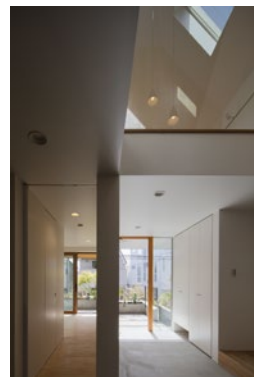
階段ギャラリー / 天窓から光が降り注ぐ



建物は前面道路から引きを取り、樹木を密集させて街とのバッファゾーンとした



2階の土間 / 側窓から光が入り外部のように明るい



3

都市型ボタニカルハウス

敷地が道路より一段高い所にある住宅。道路を歩く人が威圧感を感じない街並みになる様に建物をセットバックさせ、できる限り街に開いた。建物内を貫通する土間は街路を引き込んだボタニカルスペースとして樹木を配置し、建物内外においてボタニカルな空間が実現できている。



1 階のピロティは車路でもあり、来客時のガレージにもなる



建物の中心に階段室等のコアを設けトライアングル状に居場所を点在させた

4

浜松・山手の家

竹林が隣接する傾斜地に建つ住宅。
メインの生活空間を2階に持ち上げ、1階は夫婦それぞれの趣味室とした。2階の生活空間からは浜松の街が望め、竹林と一体化した心地いい空間となっている。建物の中心に階段室などのコアを設け、トライアングル状に居場所を点在させて、生活に広がりを持たせた。



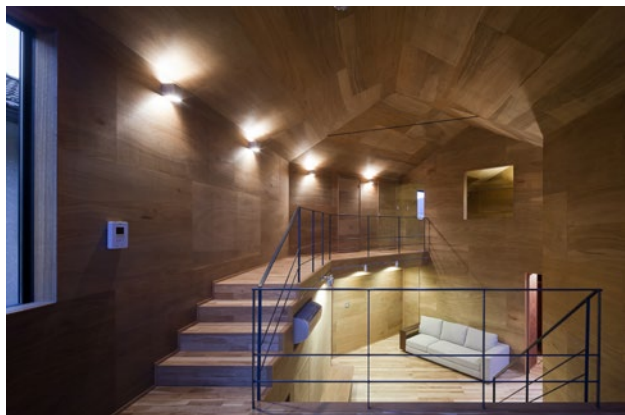
5

軽井沢・追分の家

日常の喧騒から離れてゆったりと休息するための週末住宅。より居心地の良い環境を手に入れるために敷地エリアを広げ、建物をし型に増築した。建物に囲われた落ち着いた庭は、手入れの行き届いたモミジと芝で、素晴らしい環境を作っている。



里山に抱かれた住宅



くの字に曲げたリビング / ラウン合板のみでシンプルに仕上げた

6

長瀬の家

里山に抱かれた住宅。

切妻屋根の建物を「くの字」に折り曲げることで、建物内を歩き廻りながら様々な方向に広がる自然を楽しむことができる。自然を思いきり享受するためにシンプルな操作でダイナミックな空間となる様にした。



借景の公園の樹木を一望できるリビングルーム



2階の書斎に続く帯状の居場所



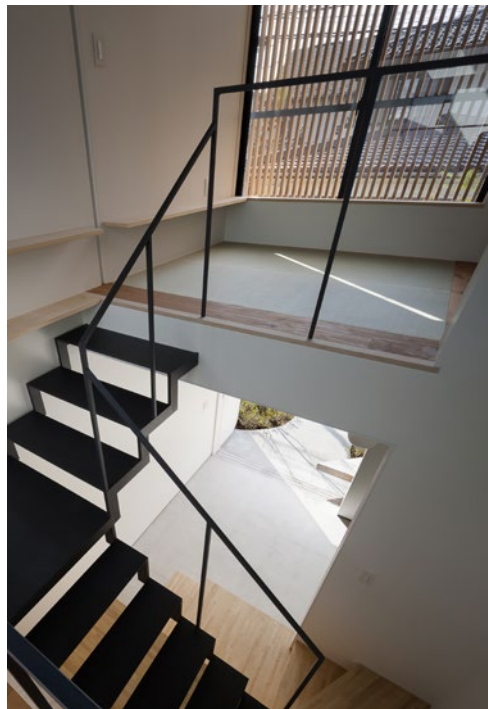
2階からも公園の緑が一望

7 みどりの見える家

公園のほとりに建つ住宅。ご主人の趣味である車やバイク、自転車を収容するガレージが、生活空間と程よく繋がる様にした。ダイニングは庭とつながった使い勝手の良い場所にある。庭に面してひとつつながりの帯状のベンチやデスクを設け、庭に向かって勉強したり、本を読んだり、くつろいだりする場所を作った。



街と繋がる土間



居間



8

小江戸・川越の町家

元々の川越の中心部に位置する住宅。失われつつある川越の街並みを引き継ぐべく現代的に再解釈した。路地に面する縁、街に開くことができる土間、裏庭までを繋ぐ通り土間、夫の間、妻の間、食の間、居間と、小間をつなげ、建具の開閉によってフレキシブルな使い方を可能にした。



切妻の屋根形状を表し、天井高を高く取った空間



中庭と繋がる居室

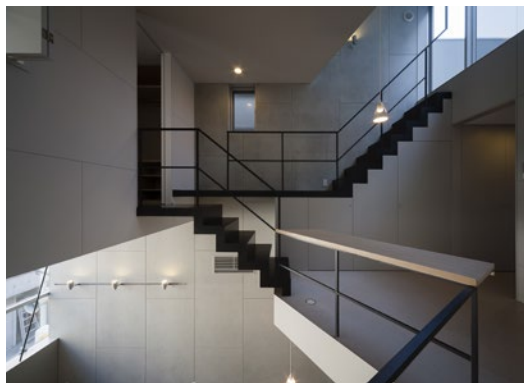
9

又穂の家

長年この地で米屋さんを営む家族の店舗併用2世帯住宅。交通量の多い大通りの交差点に位置しているが、L字型の建物に囲われた落ち着いた中庭は交差点の喧騒を忘れさせてくれる。障害を持つ家族を考慮した平屋建てとするため、若夫婦と子供のエリアは極限までコンパクトな作りとなっている。それに対して家族や街の人達が集まるスペースは、切妻屋根を利用し天井を高く取った開放感のある空間となっている。



路地の雰囲気家をの中に引き込む



最上階の光は吹き抜けを介して下階へ届く



最上階から光を取り込む

10 人形町の家

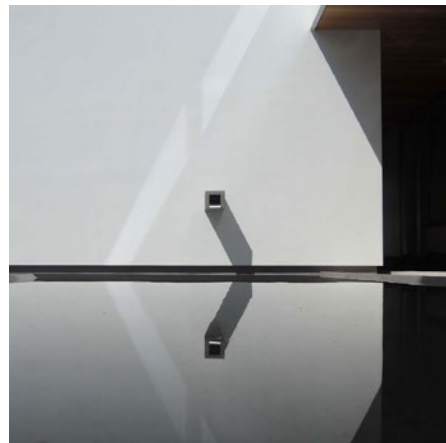
下町の人情と風情が残る街。この地に住み続ける2世代の家族の思いを受けて軟弱地盤や採光の確保など諸問題を解決しながら完成した住宅。この界隈では近隣住人との繋がりが強く路地を自分の領域と捉えているため、路地の雰囲気を家の中に引き込み2世帯間が繋がる様にした。



11

ロードサイドの家

幅員 30mの幹線道路に面する住宅。街に開きながらも、車の喧騒から守られた住空間を作ることがテーマとなっている。道路レベルには街に開ける用途のスタジオとゲストルームを設け、中庭の水盤が静けさを与えるようにした。中庭は街からも垣間見え、道行く人たちも楽しめる。主たる生活空間は上階に持ち上げ、ループウォールと呼ぶレッドシダーの壁で囲うことで、プライバシーのある落ち着いた場を確保した。最上階は周辺の山々を望める開放的な場となっている。







12

森の小屋

自然の力を享受するための質素な小屋。敷地なりにレベルを変えて床を重ね、森と呼応するように開口部を選択し、森と一体化した居場所となるようにした。レベル毎に屋根のある屋外空間、半屋外的な内部空間、独立性のある内部空間とし、上にいくほどプライバシーを持たせた。用途を限定しない場とすることで、ミニマルな空間を実現させた。



夕暮れ時



浴室から森を見る



落ち着いたあるロフト



全方向の森とつながる広間

対談：K+S アーキテクトのしごと／今までとこれから

鹿嶋信哉

かしまのぶや

1959 年愛知県名古屋生まれ。
京都工芸繊維大学工学部建築学科卒業後
芦原建築設計研究所を経て、
1990 年 K+S アーキテクト設立。
一級建築士。
日本建築家協会、日本建築学会、
日本医療福祉建築協会会員。



佐藤文

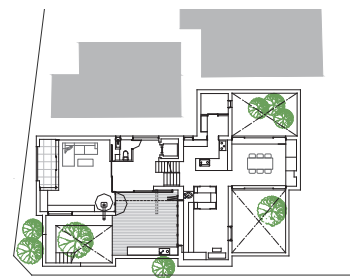
さとうあや

1961 群馬県前橋市生まれ。
日本大学理工学部建築学科卒業後
早川邦彦建築研究室 芦原建築設計研究所を経て
1990 年 K+S アーキテクト設立。一級建築士。
千葉大学、日本大学の非常勤講師を経て、
現在 関東学院大学非常勤講師。
日本建築学会会員。



事務所を初めてから今まで、住宅や高齢者施設、子供の施設などいくつかのビルディングタイプを設計する機会に恵まれ、毎回試行錯誤しながら、その都度自分たちのベストと思う答えを出してきました。今回は今までの作品を振り返って、自分たちの考えを纏める機会にできればと思います。ひとつのプロジェクトを見ても、私たちの作り方は始めから答えが用意されている訳ではなく、プレゼンテーションの度に方向を修正しながら住み手や使い手にしっくりとなじむ建物になるように調整していくという方法でやってきました。初期の頃は日の目を見ないスタディ模型を含め、すぐに事務所が模型でいっぱいになっていました。ここ最近は CG パースを使って今まで模型で検討していたことができるようになってきたし、何より単体の建物の形というよりも、建物が建つ場所性や街に対してどうあるべきかということに主眼を置くようになってきていると思います。そこで、ひとつひとつ具体的に見てみたいと思います。

佐藤 [3つのコートのある家]と[階段ギャラリーのある家]は都内の住宅密集地にあります。**[3つのコートのある家]**では周辺の中層マンションなどから見下ろされる事を考慮し、街との緩衝帯として建物の外周部に3つの中庭（コート）を設けました。それに連続させて生活エリア、スタジオ、ゲストルームを配置し、内外空間が一体となった豊かな暮らしを実現させる事ができました。特にメインの生活エリアである2階では様々な行為が中心に設けた中庭を介して展開されます。都会にあって比較的大きな敷地の場合のひとつの解になったと思います。



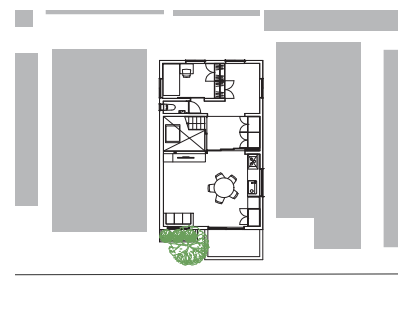
3つのコートのある家

また【**階段ギャラリーのある家**】では周辺建物が小さな庭や多少セットバックした配置で建てられていたため、それを利用して建物の隙間が増幅するように庭や駐車スペースを配置しました。それにより隣地と補完し合いながらより大きな隙間が生まれ、街の中に良い環境を作り出すことが可能になります。住宅街では周辺建物との関係を少しだけ考慮することでお互いにとってメリットのある環境が作れるというひとつの例です。



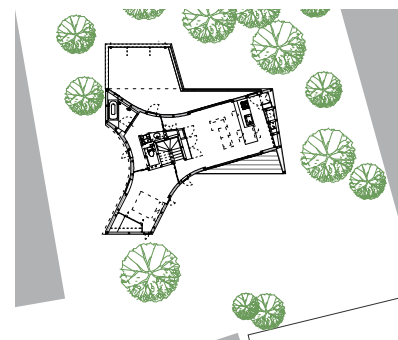
階段ギャラリーのある家

鹿嶋 【**都市型ボタニカルハウス**】も住宅密集地ですが、敷地が道路から2.6m高くなっている敷地のため、前面道路を歩いているととても圧迫感がありました。そこで建物を少しだけセットバックさせて樹木を植え、道からは樹木だけが溢れ出して見えるようにし、緑のボタニカルなエリアを立体的に建物内まで引き込みました。都市型ボタニカルハウスという名前にふさわしい建物になったと思います。



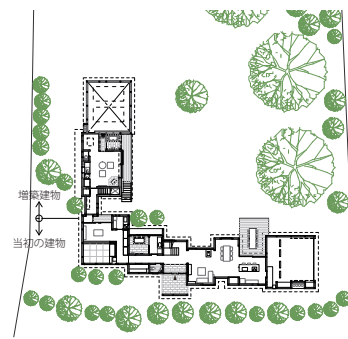
都市型ボタニカルハウス

【**浜松・山手の家**】は竹林に隣接した恵まれた敷地でしたが、南側がマンションの外廊下に面していたため、南側を閉じ、生活空間を西側の竹林に開き、浜松の遠景を望む開口部を設けました。最終的にはトライアングル状に生活空間を広げたグラウンドピアノのような不思議な形になりましたが、それは浜松が音楽の街だからという訳ではなく（笑）複雑な敷地環境の中で豊かな生活空間を作ろうと模索した結果なんです。



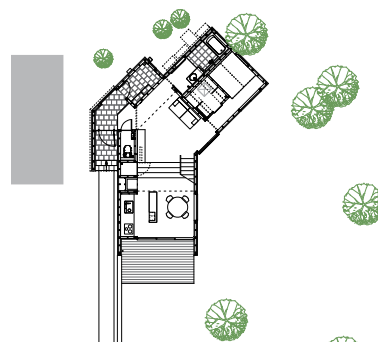
浜松・山手の家

鹿嶋 【**軽井沢・追分の家**】は別荘地にある週末住宅です。僕達が設計した当初の建物は既存樹木を生かして東西に長い敷地に少しずつボリュームをずらしながら配置したものでした。その後徐々に敷地を広げ増築することになり、当初の建物に対して L 型になる様に計画しました。それにより当初の建物と程良い距離感を持ったスペースが完成しました。また南に広がる庭が少しだけ囲まれた中庭の様になり、庭と建物の関係がより緊密になり、プライバシーも高まりました。



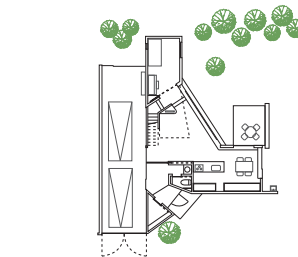
軽井沢・追分の家

佐藤 【**長瀬の家**】は里山に抱かれた風光明媚な敷地です。この場所の良さをできるだけ手を加えずに楽しむ建物にしたいと考え、南北方向に長いシンプルな切妻屋根の建物をくの字に折り曲げました。建物の中心にはダイナミックな吹抜けのある空間を設け、その中を回遊しながら周辺の景色が目に飛び込んでくることになります。くの字に曲げることで色々な方向に視線を向ける仕掛けを作りました。



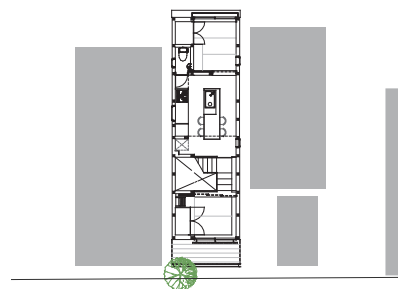
長瀬の家

【**みどりの見える家**】は地方都市の住宅ですが、公園のほとりにあります。家のどこにいても公園のみどりが眺められるだけでなく、緑に向かって生活の行為が展開するようにしました。公園の緑や庭に向かってお絵描きをしたり、座ったり、本を読んだりできるように、窓に面してデスクやベンチを帯状に作りました。そしてそれは階段を経由して2階の書斎コーナーまで繋がっていきます。緑の見える場所を設える事で敷地の良さを引き出し、それを帯状に繋げる事で、建物内の居場所が緊密になる様にしました。



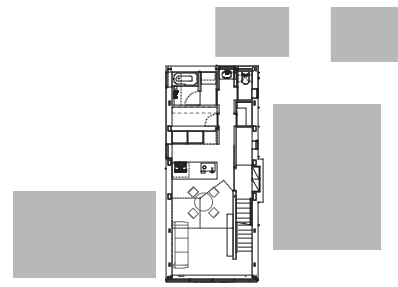
みどりの見える家

鹿嶋 【小江戸・川越の町家】は地域性ということを意識して考えました。川越といえば誰でも思い浮かべる有名な蔵造り・菓子屋横丁ではありませんが、もともとは川越の中心だったエリアです。川越らしい気質は十分に残っていましたから、川越らしく街に開かれた場所のある平入りの家にしたと思いました。祭りの際は、路地に面する土間は町の人たちがふらっと立ち寄れる場所になります。



小江戸・川越の町家

【人形町の家】は下町情緒や人情が残る場所にある住宅の建て替えです。地盤の問題や高層化されつつある周辺環境など、住み続けるには費用が掛かる場所でしたが、住み慣れた土地に住み続けたいという強い意志で何とか実現することができました。もともと家の垣根のない下町ならではの近所付き合いをされていて、路地は自分の庭の様に意識されていました。そのテリトリーの認識のしかたが面白いなと思い、路地と建物、2世帯住宅内の垣根をできるだけ作らないように設計しました。みんなが共有するプライベートな空間としての路地の魅力を建物内まで引き込んでいます。



人形町の家

佐藤 今までの事例を俯瞰してみると、その場所でしか成立しえない回答を模索しながら設計をしてきたと言えると思います。周辺環境の持っている特徴を生かしたり、或いは調整して、できるだけ手を加えずに豊かな暮らしや空間を作りたいと考えてきました。ところが、建物が一旦完成してみると、今度は逆に建物が周辺環境や関係性に大きな影響を与えることになります。

鹿嶋 確かに建物が完成し、しばらくして訪れると周辺に立派な建物が建っていたり環境に気を配ってくれていると思う家が増えていることがよくあります。建物を設計し完成するということはゴールではなく、周辺の建物やヒトにも何かしらの影響を与えることになる訳で、その後に起こる将来の関係性をできる限り想像してデザインすることが大切です。今後デザインの可能性を広げさせてくれる新たな出会いを楽しみにしたいと思います。



子供たちの家を繋ぐループ状の回廊



家の温かい灯りが子供たちを迎え入れる



13

児童養護施設 筑波愛児園

40 人の子供たちが暮らす家。森や畑に隣接した環境の良い敷地に 6 ～ 7 人をひと単位とする家が 6 戸集まって建っている。子供たちは家庭的な環境の中でのびのびと生活することができる。そして自分の家の側窓から漏れる温かい灯りが子供たちを迎え入れる。ループ状の回廊が 40 人の子供たちの家を繋ぐ。





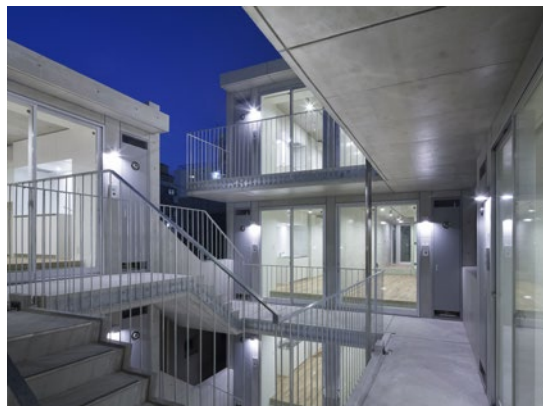
14

特別養護老人ホーム 小泉の杜

特別養護老人ホーム70人、シュートステイ10人、デイサービス20人の高齢者施設。活動範囲が限られがちな高齢者のため、個室を自分の家、共用部を街と見立て、部屋から一步出ると木々の緑や街の様子が見え、四季の移ろいを感じる事ができる建物とした。個室のボックスはランダムに角度を変えることでより出会いや発見が起こるようにした。



共有の中庭の周りを回遊しながら各住戸にアプローチする



15

ひだまりコート

下町情緒の残る街に隣接し、繊維街のある比較的にぎやかな場所に建つ14戸の賃貸住宅。コンパクトな住戸の集合ではあるが、中心に中庭を設け、回遊しながら各住戸にアプローチするようにした。各住戸は共有スペースに対して開いていて、中庭を自分の庭と見立てる事もできる。それにより住人同士のコミュニケーションが生まれ、自由な雰囲気が作られている。



A 住戸：シャンデリアや寄木細工のテーブルなど個性的な住戸



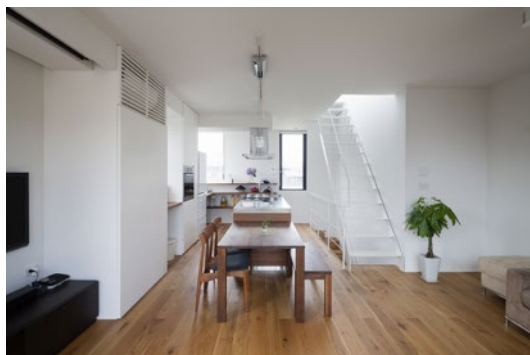
C 住戸：アクセントカラーの壁が印象的



E 住戸：素朴なフローリングと無垢板を合わせた住戸



D 住戸：ヘリンボーンの床と本棚に囲まれた住戸



F 住戸：広いルーフトラスを持つ住戸

16

等々力テラス

スケルトン-インフィル方式の6住戸の集合住宅。等々力渓谷など自然が多く残る地を好んだ6世帯がライフスタイルを存分に投影した住空間を実現した。水回りの位置はもちろん、間取り、窓の位置や大きさ、テラスの取り方、家具に至るまで、すべて特注で製作している。それぞれの住まい方の個性と生活の延長としてプライバシーを重視した外部空間の配置がこの建物の特徴になっている。



家が連なる形の外観



屋外リビングとしての中庭



中庭は子供たちが集まる場となっている

17

かぜの小路

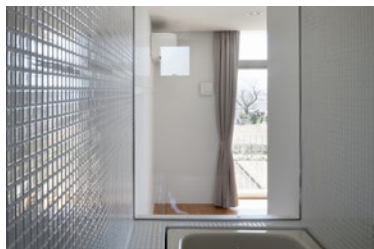
新興住宅街に建つ 23 戸の賃貸住宅。おおたかの森という地名の通り、従前の森が復活するよう、外周には緑を充実させた。ファミリータイプと、コンパクトなタイプ、庭を持つスタジオタイプ、車好きのためのガレージハウスなど、様々なライフスタイルに対応できる。中庭は住人の屋外リビングとして子供たちが集まる場となっている。



建物の中央にスリットを設け、雁行させた



敷地の傾斜に合わせた住戸内のレベル差



浴室からも敷地内の樹木が見える

18

国立遺伝学研究所宿舎

三島市の山の中腹に位置する研究所。世界から集まる優秀な研究者が研究に没頭できるように、コンパクトでありながら居心地の良い住空間となるようにした。敷地の傾斜に沿う様に住戸内にレベル差を設け、前面に広がる田んぼや樹木などが生活に憩いを与えてくれる事を意図した。



K+S アーキテクト

一級建築士事務所 東京都知事登録 第 33241 号
〒158-0096
東京都世田谷区玉川台 1-5-10 あか尾ビル 4F
TEL : 03-3708-3633
FAX : 03-3708-3672
Email : ksa@ksarchitects.jp



HP : <https://ksarchitects.jp/>

□主な受賞歴

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| [かげの小路] : | 千葉県建築文化賞 - 優秀賞受賞 |
| [小江戸川越の町家] : | かわごえ都市景観表彰受賞 |
| [特別養護老人ホーム 小泉の杜] : | 伊勢崎市景観まちづくり賞受賞 |
| [児童養護施設 筑波愛児園] : | 日本建築家協会 JIA 優秀建築選 (100 選) 受賞 |
| [桐生の家] : | 日本建築家協会 JIA 優秀建築選 (100 選) 受賞 |
| | 群馬の家 設計コンクール - 優秀賞受賞 |

写真 : 上田 宏 , 小泉の杜 : 上田 宏 ・ 鈴木 研一 , 筑波愛児園 : 上田 宏 ・ 浅田 美浩

